

香港株式市場フラッシュ

中国経済に関わらず、国有系企業の高配当利回りに魅力

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

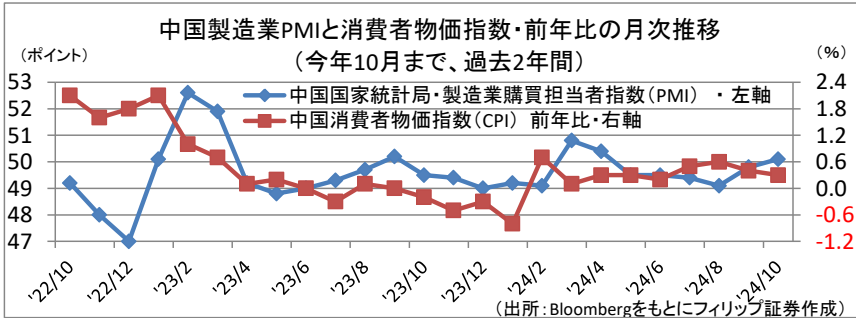
フィリップ証券株式会社

2024年11月13日号(11月13日作成)

”中国経済は底打ちの兆しも、まだら模様“

中国全国人民代表大会(全人代)常務委員会における財政政策発表は、市場の期待に応えるには不十分だったようだ。地方政府の「隠れ債務」と呼ばれる簿外債務対策として10兆元(約200兆円)規模の対策を決定したものの、消費拡大に繋がる内容ではなかった。それでも、トランプ次期米政権の方針を見極めるまで追加策を温存するのではないかと見方もあり、引き続き景気刺激策に対する市場の期待は継続するのではないかと考えられる。

中国経済の足元の状況はまだら模様だ。国家統計局発表の10月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は50.1ポイントと、経済活動の拡大・縮小の境となる50を6ヵ月ぶりに上回った。9月の社会消費者財小売総額が前年同月比3.2%増と8月(同2.1%増)から伸びが加速していることを見ても経済の底打ちを確かなものとしてつつある。その一方で、10月の消費者物価指数(CPI)は同0.3%上昇と、前月の0.4%増から伸びが鈍化。中国政府の最近の一連の景気刺激策ではデフレ脱却には不十分であることが示唆された。

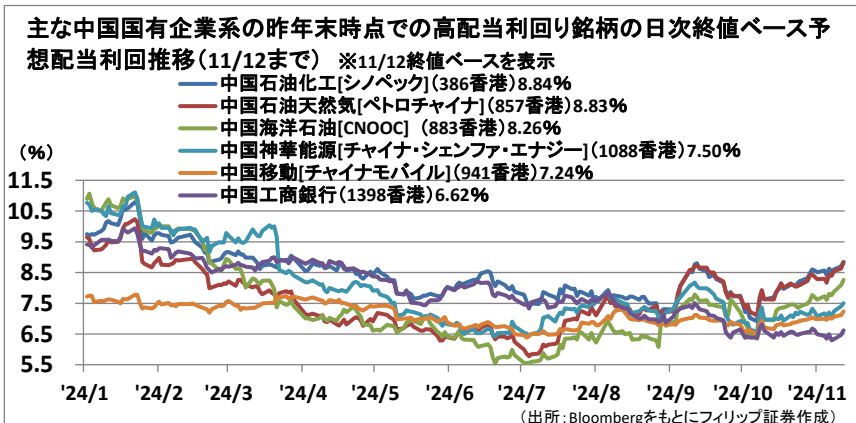


“国有系企業の予想配当利回りは引き続き高水準“

中国経済の景気が回復すれば香港株市場も一層活況になると考えられるものの、米国や日本と比較した場合の香港株市場の大きな魅力は、何といたっても配当利回りの高さだろう。その意味では、市場を取り巻く環境が厳しくなり株価が軟調に推移した時の方が、減配リスクが相対的に限定された国有系企業を中心として高配当利回りの魅力が増しやすい。「厳しい環境も尚良し」なのである。

高配当利回りの主な国有系企業として、①中国石油化工[シノペック](386香港)、②中国石油天然気[ペトロチャイナ](857香港)、③中国海洋石油[CNOOC](883香港)、④中国神華能源[チャイナ・シェンファ・エナジー](1088香港)、⑤中国移动[チャイナモバイル](941香港)、⑥中国工商銀行(1398香港)を見ると、予想配当利回りは年初より低下しているものの、中国工商銀行を除いて7~8%台と高水準を維持している。特にエネルギー関連企業は原油などエネルギーの国際相場が落ち着く中で株価が7月以降に軟調で推移していることを受けて、予想配当利回りが上昇に転じている。

今年の市場予想配当性向(純利益に対する配当の割合)も、①65%、②47%、③41%、④73%、⑤72%、⑥31%であり、減配リスクは引き続き限定的だろう。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全96銘柄)における終値の昨年末来騰落率

前回基準日: 20241019 基準日: 20241112

順位	2023年末来騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位	
1	Meituan (美团)	114.5	1
2	中国宏橋集団[チャイナ・ホンチャオグループ]	108.8	2
3	小米集団[シャオミ]	82.4	7
4	携程旅行網[トリップドットコムグループ]	81.6	4
5	ビリビリ	81.5	3
6	吉利汽車控股[ジーリー・オートモービル・HDS]	70.5	5
7	中国人寿保険[チャイナ・ライフ・インシュアランス]	63.8	6
8	招商銀行	46.8	8
9	中国海洋石油[CNOOC]	39.9	9
10	中国平安保険(集団)[ピンアン・インシュアランス]	39.1	11

順位	2023年末来騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位	
96	蔚来汽車[ニオ]	-48.4	93
95	East Buy Holding Ltd	-44.2	96
94	業明生物技術[ウーシー・バイオロジクス・ケイマン]	-43.8	95
93	Budweiser Brewing Co APAC Lt	-43.0	94
92	理想汽車	-38.6	83
91	新世界発展[ニューワールド・デベロップメント]	-34.1	88
90	恒隆地産[ハンロン・プロパティーズ]	-30.7	91
89	周大福珠寶集団[チャウタイフックジュエリーグループ]	-30.0	90
88	JD Health International Inc (京東健康)	-27.9	84
87	Nongfu Spring Co Ltd(農夫山泉)	-27.5	92

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2024年10・11月: 中国主要経済指標】

- 10月31日(木)
 - ・10月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.8、結果50.1
 - ・10月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.0、結果50.2
- 11月1日(金)
 - ・10月(財新)製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.3、結果50.3
- 11月5日(火)
 - ・10月(財新)サービス部門PMI: 前回50.3、結果52.0
- 11月7日(木)
 - ・10月外貨準備高: 前回3.31兆USD、結果3.26兆USD
 - ・10月貿易収支: 前回+817億USD、結果+957億USD
 - ・10月輸出<前年同月比>: 前回+2.4%、結果+12.7%
 - ・10月輸入<前年同月比>: 前回+0.3%、結果▲2.3%
- 11月9日(土)
 - ・10月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回+0.4%、結果+0.3%
 - ・10月生産者物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回▲2.8%、結果▲2.9%
- 11月11日(月)
 - ・10月資金調達総額: 前回25.66兆元、結果27.06兆元
 - ・10月新規人民元建て融資: 前回16.02兆元、結果16.52兆元
 - ・10月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+6.8%、結果+7.5%
- 11月15日(金)
 - ・10月小売売上高<前年同月比>: 前回+3.2%
 - ・10月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+5.4%
 - ・1-10月不動産投資<前年同月比>: 前回▲10.1%
 - ・1-10月固定資産投資<前年同月比>: 前回+3.4%
 - ・10月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.71%
 - ・10月住宅販売面積<前年同月比>: 前回▲24.0%
 - ・10月調査失業率<前年同月比>: 前回5.1%
- 11月20日(水)
 - ・1年ローン・プライムレート: 前回3.10%
 - ・5年ローン・プライムレート: 前回3.60%
- 11月15日(水)~25日(月)
 - ・1年中期貸出ファンリテイ金利: 前回2.0%
- 11月27日(日)
 - ・1-10月工業利益<前年同月比>: 前回▲3.5%

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、当レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。